

ふたら、教へて貰ふた通り云へ、コラチンピラ、山椒はヒリリと辛いと吐かしてけつかる阿呆め……言ひ草一つよう云はんのやな、それも云はうなら、山椒は小粒でもヒリリと辛いと云ふのちや、汝の云ふたのは小粒が落ちて居るわい」と云はれて其邊を見廻して「ウム何處に……」

大阪より野崎への順路

野崎詣りの道筋、八軒家とは現今の天神橋南詰東を言ふ、土手下とは天満橋の南詰東へ偕行社の下一帯を土手下、京阪電鐵架設にて取退きになりしが、以前は飲食店が軒を並べ張ぼての蛸などが屋根に釣下げてあり、齒神様として小さな社あり、線香の絶え間無く杉の箸を持つて詣る、社の邊に箸を突指しあり、餅屋あり俗に土手下の焼餅と言ふ、京橋と備前島橋俗に御成橋といふ、兩橋の間を片町是を東に徳庵へ出で、住道を経て野崎村に至る。

上方はなし野崎詣り口演者

- 故 桂 梅 丸
- 故 二代目桂文三(俗に灯ちん屋の文三、後に天満龜の池林家の養子と成る、林家木鶴と言ふ)
- 故 月亭 文都 故 桂 南 光
- 故 笑福亭松光 入目の松光(かんやん) 故 桂 枝 雀
- 四代目 笑福亭松鶴 桂小南(現在は東京の寄席出演)
- 故 露の 五郎 (其他は略す)

ごつちりごんお染久松



「歌」かはいさうだよ。あの久松は。くらのにかいにいれらる。さぐりよつたるくらのまへ。「淨瑠璃」たとへいたとて人のくち。あれあの。やまがやのよめをみや。かはいさうに久松が。おもひつめてしんだのに。みすてゝすぐによめいりは。おうしんだいの。やまがやで。ゑようがしたさぢや。みなよくちや。あつかはづらのおなごぢやと。「歌」うちのこがいぢやでつちぢやと。わけへだてをばしやんすな。こひに上下のへだてなし。なんぼしようばいひぢやでも。かはいそなたをくらにいれ。利に利でせめることはない。